

2024 年エルサルバドル総選挙 —ブケレ大統領圧勝の背景と二期目の課題



渡邊 翼（在エルサルバドル大使館 専門調査員）

はじめに

今年（2024 年）のエルサルバドルは、大統領選と国会議員選が 2 月、全国市長選と中米議会選が 3 月に行われる「選挙の年」であり、飛ぶ鳥を落とす勢いで勝利を収めつつあるのが現職のブケレ大統領（休職中）である。ブケレ候補は、大統領選で得票率 83% を叩き出し、また国会議員選では自身の政党である新思想党（Nuevas Ideas: NI）が 60 議席中 54 議席を獲得した¹。本稿では、従来違憲と解釈されていた大統領連続再選が可能となり、なぜ国民がブケレ大統領に熱中するのか、その背景、最後に今年 2 月の大統領・国会議員選挙の結果に触れつつ、ブケレ政権二期目の展望を述べる。

開かれた連続再選の道

2019 年の大統領選に勝利したブケレ大統領は、2021 年の国会議員選挙において、彼の政党 NI が、最高裁判事及び検察庁長官の任命や借款の承認等の重要案件承認に必要な 3 分の 2 以上の議席数を獲得した。ブケレ大統領の一連の勝利は、旧二大政党の国民共和同盟（ARENA、右派）とファラブンド・マルティ民族解放戦線（FMLN、左派）による長年の腐敗した政治に辟易した国民が、伝統的な二大統治体制に一石を投じて変革を期待する表れである（笛田 2022）。こうしてブケレ大統領は、自身の意に沿う検察庁長官の任命と最高裁判事を 15 名中 10 名入れ替えたことで、行政、立法、司法の三権全てを掌握した。

2021 年 9 月 3 日、最高裁憲法法院はブケレ大統領の連続再選を可能とする判決を下した。野党、NGO 及び国際社会は、従来の憲法解釈の変更を痛烈に非難、同月 15 日には、今回の憲法解釈の変更、ビットコインの法定通貨化や三権分立の軽視等の抗議として大規模な反政府デモが発生、さらに同月 20 日に米商務省は、今回の憲法解釈を行った最高裁憲法法院判事を汚職及び反民主主義に荷担している者のリスト（通称「エンゲルリスト」）に掲載する等、反政府派のブケレ政権に対する風当たりはますます強まった。

従来の憲法解釈では、エルサルバドル共和国憲法第 152 条 1 項（以下）等を根拠に大統領の再選は禁止とされていた。

Artículo 152 inciso 1

No podrán ser candidatos a Presidente de la República:

1. El que haya desempeñado la Presidencia de la República por más de seis meses, consecutivos o no, durante el período inmediato anterior, o dentro de los últimos seis meses anteriores al inicio del período presidencial.

憲法第 152 条 1 項

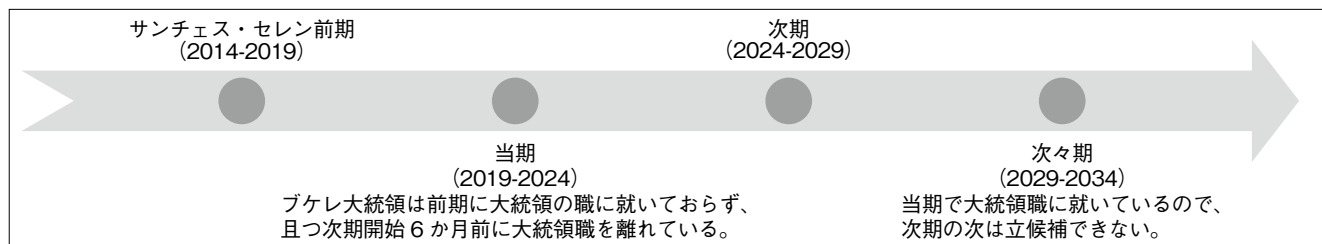
以下の者はエルサルバドル共和国の大統領候補者の資格を有さない：

- 1 項. エルサルバドル共和国の大統領の職を 6 か月以上、連続しているか否かに関係なく、直前の期間に務めた者、または政権開始直前 6 か月前に務めていた者。（執筆者訳）

だが、2019 年 9 月の最高裁憲法法院の判決は、上記規定が大統領ではなく候補者の資格を明記している点を強調した。つまり、直前の期間とは、次期大統領職に就く者の目線で当期中に大統領職にあるかを判断するのではなく、当期中の大統領候補者として、前期に大統領職に就いていたか否かが、立候補資格の有無の判断材料となるとした。従い、ブケレ大統領が次期政権（2024–2029 年）の候補者となるには、ブケレ大統領が前期に大統領職に就いていなければよく、且つ次期政権開始直前 6 か月前となる 12 月 1 日までに大統領職に就いていなければ、憲法第 152 条 1 項の規定をクリアできる。

2023 年 11 月 30 日、議会はブケレ大統領とウジョア副大統領の休職（licencia）を認め、クラウディア・ファナ・ロドリゲス・デ・ゲバラ氏²を暫定任命大統領とした。

図 ブケレ大統領の連続再選を可能とする解釈



出所：CSJ（2021）より執筆者作成。

国民からの圧倒的な支持率と「ブケレ・モデル」

ブケレ大統領の国民からの評価は就任時から常に10点中8点以上（Francisco Gavidia 2020, 2021, 2022, 2023）と高評価であるが、これは治安改善によるところが大きい。同大統領は政権当初から公約に掲げていた徹底的なギャングの取り締まりを実施すべく、「犯罪地域コントロール計画」³と「例外措置体制」⁴を展開、4万人収容可能な大規模刑務所「テロ対策センター（Centro de Confinamiento del Terrorismo: CECOT）」を建設し、これまでに7万5000人以上のギャングを収容した。その過程で7000人以上が誤認逮捕、刑務所では200人以上の死者が出る等、野党はじめNGOや国際社会が、ブケレ政権の強権的且つ人権軽視とも取れる措置を厳しく非難した。だが、2023年のエルサルバドルの10万人あたりの殺人件数は2.4件とラテンアメリカで最も低く、米州ではカナダに次ぐ数値である（PNC 2024）。全国にギャングがはびこり、長年に亘り治安改善が優先課題であったエルサルバドルにとり、どのような形であれ、それら無法者が一掃され、恐喝のない自由と安心を手に入れた国民が、反政府派の声に耳を貸すとは考えにくい。

また、ブケレ大統領の「例外措置体制」等で国民の自由をある程度制御し、集中的に治安改善を図る手法は「ブケレ・モデル（Modelo Bukele）」と呼称され、ホンジュラスやエクアドル、チリ等の治安悪化に苦しむ近隣国家では、同手法の導入に期待を寄せる国民もあり、注目を浴びている。

選挙の勝利を手繰り寄せるブケレ大統領の戦略

治安改善で成果をあげたブケレ大統領は、国民から大きな信頼を勝ち取る一方、水面下ではエルサルバドル総選挙における勝利を手繰り寄せるべく、議会を通して選挙制度を次々と変更してきた。

2023年3月、議会は選挙法第291-A条の廃止を可決した。同条項は選挙が混乱なく実施されるよう、選挙期日前1年を過ぎれば選挙制度は変更できないと

するものである。つまり、同条項の廃止は選挙プロセスをいつでも変更できることを意味し、実際に議会は、2023年6月、①議会の議員定数を84から60議席に削減、②議員の選出方法を最大余剰方式（ヘア式）からドント方式に変更、③全国262都市を44都市に再編成する改革を強行した。2021年の国会議員選挙の結果をドント方式で算出した場合、NIと協力関係にある国民のための大連合（GANA）の議席獲得数は、84議席中61議席（73%）から60議席中55議席（92%）（Acción Ciudadana 2023）となり、2021年全国市長選挙の結果を再編成後で算出した場合、NIが獲得する都市は262都市中152都市（58%）から44都市中32都市（73%）になる（El Faro n.d.）とされ、与党に有利な改革という見方ができる。またFMLN及びARENAは、2021年から政党交付金が支払われておらず、選挙活動が困難と訴える。

さらに、ブケレ政権は、2022年にサンチェス・セレン前大統領（2014-2019、FMLN）、翌年にアルフレド・クリスティアーニ元大統領（1989-1994、ARENA）を汚職による財産差し押さえ、同年にニカラグアに亡命中のマウリシオ・フネス（2009-2014、FMLN）元大統領を、ギャングと政府間で政府が彼らに便宜を図る見返りに殺人を減らす取り決めを行ったとして有罪判決を下す等、旧二大政党の悪事を国民に強く印象付けた。

選挙日間近での「ゲームのルール」変更や政党交付金未払いは、野党に選挙準備時間とリソースを与えず、またARENA及びFMLNに対するネガティブキャンペーンを展開する等、ブケレ政権が選挙に向けて着々と環境を整備してきたことが窺える。

大統領・国会議員選挙の結果と今後の展望

2024年2月4日の大統領・国会議員選挙はブケレ大統領圧勝という下馬評通りの結果であった。最高選挙管理委員会（TSE）の結果発表前に、選挙日夕方、ブケレ大統領は自身のSNSを通して、得票率85%以上で大統領選挙に勝利、少なくとも60議席中58議

席を獲得した旨発信し、午後10時頃に国立宮殿で実質的勝利宣言をした。そこでは、得票率85%の大統領選出はエルサルバドル憲政史上初であり、自身は民主的に選出された大統領とアピールする一方、国際社会及び野党はギャングの人権を尊重し、今も昔も誠実な国民を見捨てていると非難した。治安改善が長年の課題であり、旧二大政党は抜本的な治安対策を行えなかった以上、このナラティブは国民の心に深く刻み込まれるものだった。

エルサルバドル国民のブケレ政権一期目の評価は申し分なく、その最たる要因は、どのような形であれ、長年に亘り社会を支配してきたギャングを一掃し、国民に自由と安心をもたらした治安政策である。

遅かれ早かれ、国民は安全なエルサルバドルを当然視し始めるだろう。国民からの高い支持率を維持するには、二期目は治安だけではなく次なる一手を打つ必要がある。二期目を迎えるブケレ政権の次なる課題とは何か。一つは経済と言える。当地シンクタンクのFundaungoが今年1月に発表した世論調査では、回答者の約70%が、エルサルバドルの課題を「経済」と挙げ、「治安」は約4%であった(Fundaungo 2024)。

エルサルバドルは天然資源や地場産業に乏しい等の経済的制約もあり、1996年から2023年の平均経済成長率は2%に留まる。これは他の中米諸国と比較しても低く、直近の海外直接投資額は中米地域でワースト1、2位を争うパフォーマンスである。近年は、歴代政権により積み重ねられてきた債務と新型コロナウイルス対策による財政支出が重くのしかかる。財政健全化を目指し国際通貨基金(IMF)と借款交渉しているものの、2021年9月のビットコイン法定通貨化等が足枷となり進展が見られていない。

近年、コロナ禍のサプライチェーンの分断の教訓から、生産拠点を消費地近くに移転させる「ニアショアリング」の動きが中南米で見られ、これは低迷するエルサルバドル経済を立て直す好機とも言える。そのためにも、まずはIMFとの借款交渉を成立させ、国際金融市場や外国企業に前向きなメッセージを送る必要があるだろう。大勝利を収めたブケレ大統領だが、それゆえ、国民からの期待値は高い。ブケレ政権二期目は国民からの期待に応え続けられるか、それとも凋落の一途を辿るか、ブケレ大統領の政治的手腕に目が離せない。

(本稿は、執筆者個人の見解を記したものであり、在エルサルバドル日本国大使館及び外務省の見解を示すものではない。)

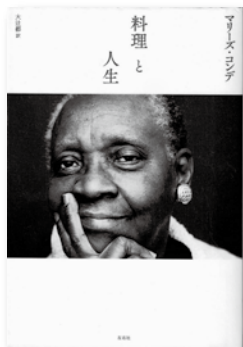
参考文献

- 笛田千容 (2022) 「エルサルバドルにおける司法の危機と専制化の予兆」『ラテンアメリカ・レポート』38 (2) : 35-47.
- Acción Ciudadana (2023) “Reforma electoral 2023: Cambios al número de escaños y fórmula electoral”, <https://accion-ciudadana.org/informes/-Boletin-tematico-Reforma-electoral-2023.-Cambios-al-numero-de-diputados-y-formula-electoral.-Accion-Ciudadana-2023.pdf> (2024年2月19日最終閲覧) .
- CSJ (2021) “Resolución 1-2021 Pérdida de Derechos de Ciudadanía”, <https://www.jurisprudencia.gob.sv/busqueda/showFile.php?bd=1&data=DocumentosBodega%2FD%2F1%2F20202029%2F2021%2F09%2FEADB0.PDF&number=961968&fecha=03/09/2021&numero=1-2021&cesta=0&singlePage=false%27> (2024年2月19日最終閲覧) .
- El Faro (n.d.) “Un mapa electoral a la medida de Nuevas Ideas”, <https://elfaro.net/concejales/> (2024年2月19日最終閲覧) .
- Francisco Gavidia (2020) “Todos los sectores apoyan al Presidente…pero el 4% existe”, <https://www.disruptiva.media/todos-los-sectores-apoyan-al-presidente-pero-el-4-existe/> (2024年2月19日最終閲覧) .
- (2021) “Los salvadoreños evalúan los dos años de gobierno del presidente Nayib Bukele…todo va a estar bien”, <https://www.disruptiva.media/los-salvadorenos-evaluan-los-dos-anos-de-gobierno-del-presidente-nayib-bukele-todo-va-a-estar-bien/> (2024年2月19日最終閲覧) .
- (2022) “Evaluación de tres años de gobierno del presidente Nayib Bukele: Sin novedades, todo está bien”, <https://www.disruptiva.media/evaluacion-de-tres-anos-de-gobierno-del-presidente-nayib-bukele-sin-novedades-todo-esta-bien/> (2024年2月19日最終閲覧) .
- (2023) “Encuesta de cuatro años de gobierno y perspectivas elecciones: Estos son los datos, no se aceptan devoluciones”, <https://www.disruptiva.media/estos-son-los-datos-y-no-se-aceptan-devoluciones/> (2024年2月19日最終閲覧) .
- Fundaungo (2024) “Evaluación ciudadana del año 2023 y precepciones en torno a las elecciones de 2024”, https://drive.google.com/file/d/16l_E043jVXRvS7KplwLlsbk4fr3CKpCm/view (2024年2月19日最終閲覧) .
- PNC (2024) “El 2023 fue el año más seguro en la historia del El Salvador”, <https://www.pnc.gob.sv/el-2023-fue-el-ano-mas-seguro-en-la-historia-del-el-salvador/#:~:text=%E2%80%9C9CLa%20tasa%20de%20homicidios%20por,homicidios%20por%20cada%20100%20mil> (2024年2月19日最終閲覧) .
- TSE (n.d.) “Escrutinio final 2024”, <https://divulgacion.tse.gob.sv/resultados/index> (2024年2月19日最終閲覧) .

- 1 最高選挙管理委員会（TSE）は2月9日に大統領選の公式結果を発表し、ブケレ候補は270万1725票（得票率82.66%）を獲得して、得票数二位のフローレス候補（ファラブンド・マルティ民族解放戦線[FMLN]）の20万4167票（得票率6.25%）を大きく引き離れた。また、国会議員選挙は2月19日の暫定結果（開票率100%）では、60議席のうちNIが54議席、国民団結党（PCN）が2議席、国民共和同盟（ARENA）が2議席、キリスト教民主党（PDC）が1議席、VAMOS党が1議席となっている。
- 2 ブケレ大統領の私設秘書、地方自治体公共事業国家局（DOM）の理事会長及び法定代表者、また閣僚委員会の秘書を務め、過去にはブケレー族が所有する広告会社の財務部長、ブケレ大統領が市長を務めていたヌエボ・クスカトラン市長の財務課長、サンサルバドル市長の会計課長を務めた経歴を持つ。
- 3 犯罪地域コントロール計画（Plan Control Territorial: PCT）は全7フェーズから構成されるブケレ政権の治安政策であり、現在フェーズ6まで進行しているが、フェーズ7の詳細は不明である。それぞれのフェーズは、①領土回復の準備「準備（Preparación）」、②若者に対する文化活動の機会提供「機会（Oportunidades）」、③警察及び軍の装備品強化「近代化（Modernización）」、④軍の人員増加と派遣「侵入（Incursión）」、⑤ギャングの取り締まり「摘出（Extracción）」、⑥官民学による社会の基盤構築「統合（Integración）」である。
- 4 2022年3月25日と26日に大量の殺人事件が発生したことから、政府は逮捕状なしでの犯罪容疑者の逮捕・拘束等を認める30日間の例外措置体制（Régimen de Excepción）を敷き、現在までに22回の延長（2024年2月10日まで有効）が行われている。

（わたなべ つばさ 在エルサルバドル日本国大使館 専門調査員）

ラテンアメリカ参考図書案内



『料理と人生』

マリーズ・コンデ 大辻 都訳 左右社
2023年7月 302頁 3,800円＋税 ISBN978-4-86528-377-8

アフリカから拉致された黒人奴隷の末裔が多く住むカリブ海地域のフランス語圏文学は、クレオール文学と呼ばれわが国でもこの20年ほどの間でかなり翻訳書が刊行されている。フランス領グアドループに生まれ裕福な家庭に育った著者は、10代半ばでフランスに渡って英文学を学び、ソルボンヌ大学で博士論文を書き上げた後にギニア人と結婚、西アフリカにフランス語教師として赴き、再婚した英国人のリシャールとともに後に作家として活動するとともに米国のコロンビア大学で比較文学を講じるなどしてきた。作家としての代表作には『生命の樹 ―あるカリブの家系の物語』（管 啓次郎訳、平凡社、2019年。本誌2020年春号で紹介）などがある。

本書は代表的なクレオール文学者といっているマリーズ・コンデが人生と文学、旅を語っているが（神経系の病気で手を使って書けなくなった彼女に代わりリシャールが口述筆記）、それらの共通項に常に料理があるのが表題のゆえんである。女中たちから料理を教わる台所が隠れ家だった娘時代の母国グアドループでの思い出、欧米、アフリカをはじめ何度も訪れた日本の焼き鳥や少量の料理が次々と供された懐石料理（と思われる）、ラテンアメリカではキューバのラムとコーラのカクテルのキューバ・リーブレ、故アジェンデ大統領と詩人パブロ・ネルーダの痕跡を訪れたチリではスパークリングワインなどについて、忌憚のない評価を交えて各地での料理について多く語られているが、フランス人でもアフリカ人でもなくカリブ人であると自負した世界的黒人女性作家による面目躍如の20編の自伝的回想録。（桜井 敏浩）



『ブラジルの人と社会 [改訂版]』

田村 梨花・三田 千代子・拝野 寿美子・渡会 環共編 上智大学出版発行・ぎょうせい発売
2024 年 4 月 265 頁 2,100 円+税 ISBN978-4-324-11408-7

ブラジル理解のためのよき参考書として 1982 年に上智大学外国語ポルトガル語学科創設以来に講じられてきた「ブラジル社会論」の教科書として編まれた前版（本誌 2017 年夏号で紹介）はブラジルを理解する上で有用な図書であったが、7 年経って新しい視点から加筆修正し、コラムを追加した改訂版である。

ブラジル社会の多様性と格差から始まり、多人種・多民族社会形成の歴史と社会成層化、ブラジル社会形成過程で重要な機能を果たした宗教と家族制度、20 世紀以降の都市化にもなって生じた社会的問題、新憲法下での市民権、社会的格差克服の手段としての条件付き現金給付政策、ジェンダー問題としての女性の社会参加、1980 年代の経済停滞とともに始まったグローバル規模でのディアスポラ（越境）と日本を含む各国でのブラジル人コミュニティ、その結果探求されるようになったアイデンティティの行方や文化伝搬に至るまでを解説し、それぞれの章に関連した読み易いコラム、資料として行政地図、参考文献表、索引も付されている。

政治経済のリアルタイムの解析よりも、今あるブラジルを作り上げてきた政治文化の理解を社会を知ることから深めることを目的に構成された、ブラジル社会の基底を分かり易く解説しコンパクトに纏めた有益な 1 冊。

〔桜井 敏浩〕



『果樹とはぐくむモラルーブラジル日系果樹園からの農の人類学』

吉村 竜 春風社
2024 年 1 月 314 頁 4,400 円+税 ISBN978-4-86110-887-7

サンパウロ州ピラル・ド・スール市で柿などの果樹栽培農業に従事する日系人たちは、天候不順、価格変動などのリスクに対応しつつ経営を合理化し市場と向き合うと同時に、栽培者として日々作物と向き合い、栽培者同士で土地、販路、技術の共有に積極的に取り組んでいる。ブラジルに渡った日系人たちが、人間・作物・生態環境の三者間関係の中で「農を業に」してきた軌跡、連帯・協同・仲間意識によって営みを持続するに伴い培われ、その安定的な経営と栽培を支える日系人の固有の「モラル」が、果樹園経営を通じて農業（産業）のどこかに「農民」「農」の根源を発見し、農業に再び適応させて「農を取り戻し」ていると著者は主張する。「農」の根源である「果樹との対話」と「モラル」によって、現代ブラジル地域社会に浸透するグローバル市場経済システムの中にあっても、日系人は「農を業にする」と「農を取り戻す」という二つの展開を両立していると説く著者の論理は難解だが、同地の日系農園の手伝いをしながら長くフィールドワークを行ったため、同地の日系「植民地」の造成、日系協同組合の再編、柿栽培の状況などがコラム 4 編とともに分かり易く描写されている。著者の専門は社会人類学、地域研究で、ブラジルを研究する日本学術振興会特別研究員（PD）、本書は東京都立大学へ提出した博士論文を基にしている。

〔桜井 敏浩〕